

# 首都圏増田会だより

27

貴方を、待っている友がいる、

上野の“首都圏増田会”で。



真人公園にて『さざ波にゆれる水面』  
みなも

撮影者 会員 石田 実氏

懐かしい増田生まれの、地酒、平鹿りんご、芋の子汁を準備し田舎の名産を。沢山車に詰めて。みんなが待つ上野の御徒町へ来る。

年に一度の楽しい集いに、友人知人を誘い参加してください。

地酒、田舎の味覚に舌鼓、仲間と会い明日への活力にする、増田会へ。

心をこめて、晩秋の一日を、おもてなします。

皆さんで築く首都圏増田会をめざして仲間と、役員一同で待っています。

11月18日(日)首都圏増田会へ。



# 備えあれば憂いなし

首都圏増田会会長 佐藤 章



**昨** 年のたよりに「ふる里は豪雪」と云う一文を書いてから早いものであつという間に1年がたった。私だけではないと思うが、古里の蜜の入ったみずみずしいりんごを頬張るのが毎年の楽しみで有った。しかし昨年は違った。例年無造作に口

に入れていたが、収穫が例年の3割と聞くと、有り難く頂戴しなければと特別な思いで食した。例年より若干小振りであったが、味はいつもながら他の産地とは比べようがないほど美味し。頑張つて是非今年までと同程度の収量まで回復してもらいたいものであ

る。今年もラニーニャ現象で各地で大雪との報道である。スペイン語で「女の子」と云う事であるが、度を越せば「お転婆娘」で可愛くない。田沢湖の奥の玉川温泉では岩盤浴(ガン)に効くという事で超有名客が雪崩の被害を受けたとの報道が連日なされてる。雪を「天からの手紙」と悠長なことば言っている。雪慣れしているふる里の人々も白魔との戦いにすっかり疲れているようである。

2月、陽光は日ごとに強く成つてきている。もう少しの辛抱。もう一踏ん張り。4年以内に70%の確率。言わずもがな首都圏直下型地震の確率に付いて、東大の先生の試算である。警告と受け止め、きつちりと対応したいものである。毎年のことであるが、会員の減少に頭を悩ましている。若い人の入会に是非ご協力をお願いしたい。また、会員各位の支援をいただき活発な活動を展開して参りたいものと考えているので、今年もどうぞ宜しくお願い。

## 第26回総会 前夜の雨も上がり晩秋の中増田会開催す



左下/挨拶をする会長 左下/民謡歌手の福本さん

**11** 月20日に東上野の「オーラム」に於いて第26回首都圏増田会が開催された。昨夜来の雨が心配されたが幸にも止んだ。今年から運営上の都合で開催時間が繰上がり周知されているか気掛かりでしたが出席は昨年より多いと感じた。横手市関係者や、それぞれの地域ふるさと会の方々のご臨席のもと総会が開催され、司会の細野幹事長により全出席者が先の大震災で亡くなられた多くの方々の霊に対して黙祷を捧げられた。佐藤会長の挨拶の中で特筆すべきは顧問(元町長)として増田会創成期の

昭和61年から今期に至るまで多大なご尽力を戴いた市議会議長石山米男氏の早世について感涙の報告をされ、顧問として増田会を育み続けられた御恩は決して忘れる事はない。顧問は増田会への出席は大変楽しみだと云って居られた、田舎訛りを折込んでユーモラスに時間も気にしないで語る姿はもう見られ無いのは残念です。佐々木喜一市議のお話の中で増田の蔵が「さや」で覆われた内蔵の話も町起こしの意気込みが伝わった。私も以前又六家の住宅を拝見した折りに家も蔵も見応えあり又ご夫婦の丁寧な対応には見学者も感激、これぞ宝だと思われた。佐々木氏には町起こし大い

に頑張つて戴きたい。総会の議事議題は書面提案され可決承認され懇親会に先立ち会を支えて頂いた田舎から来られた方々を紹介し盛大な拍手が送られた。懇親会は地酒(日の丸や芋の子汁等好物が振舞われて好評であった。料理が余ったのが気に成った。暫く振に出席された方々多く見掛けられ知り合いを見つけては郷の話やらで盛上っていた。アトラクションもプロの民謡歌手と高橋社中演奏で唄と踊りで会場は盛上った。それぞれが余韻に浸りながら帰路に付かれた事と思います。身専一で今年の総会にもまた来て故郷の話をしませんか。

【佐藤(武)記】

## 会員の声

### 増田会への思い

石渡(旧姓:佐々木)テルさん  
東京都在住(川口出身)



第26回の増田会が昨年11月参加者の歌と踊り有りの

楽しい雰囲気の中に終わりました。年が明けて又心配の雪の季節になっていると思うと大雪のニュースに釘付けになる昨今です。昨年の『リンゴの木』の雪害の話を知りました。今年も心配です。他にも屋根の雪下ろし等地元の人々を不条理にも巻き込んでしまう様でなんとも言葉がない。「路のとう」が顔を出す頃の春の訪れは歳を重ねる毎に鮮明に浮かんで来るものです。巡り来る季節の喜びは普通に過ぎて欲しいと思うばかりです。しかし2011年3月11日の東日本大震災が起き未曾有の大津波に何もかも消え失せて

しまいました。いつ何が起こるか分からないと言う思いに打ち拉がれた春でした。それでも季節は巡ってきました。そして被災者はゼロから立ち上がろうと既に生きる事に立ち向かっています。あの恐ろしい光景の中から人と人との繋がりの強さを感じましたが何かほんの少しの心の温かさが大きな動きを作るのだと思います。役員の皆様は毎年の秋の行事としてご苦労様です。参加者の一人として当日は久々に会えた方々との感動も大きいものがありますし、懐かしい郷土料理の味にも嬉しい声が上がります。時々開かれる物産店にも行ってみますがそれも懐かしい味を求めてです。やはり生まれ育った場所の季節の風景が浮かんで来ます。昔からの味を守るのも大変な事です。それを受継いでいる町の皆さんの努力が町の発展へとつながるのだと思

### 故郷を訪ねて

石田実さん  
埼玉県在住(田町出身)



故郷を離れた気がつければ45年の歳月が過ぎ去りました。

た。この度45年ぶりに生まれ故郷である増田町を訪れて、当時の面影が少し無くなっていく事に気づき寂しい思いが心に襲って来ました。同期である人々たちにもお会いできて話が弾み懐かしさで涙が出てきた事。今は都会になれ人間的には少しではご座います。が狡猾く生きてきた自分を見

### 今でも夢見る子供の頃の町祭り

加賀 寛治さん  
神奈川県在住(上町出身)



重たげに穂を垂れる稲、今年も豊作。家々の祭り提灯の電灯が点き、宵祭りが始まる。サイサイ囃子が賑やかに月山

神社へ向かう。祭り見物の人混みの中、立ち並ぶ露天を巡り歩く。夜空に大輪の菊花が次々と開く。祭りの日鳥帽子と白装束の男たちが担ぐお神輿がしずしずと通る。馬に乗るのは神主さんか? ジンタのメロディ流れるサーカス小屋へ、一輪車の女の子を憧れの眼で見る。あちこちの踊舞台を歩くドンと上がった花火から飛び出た商品券付き、落下傘を長い竹竿を持った大人達と子供達が追い駆け回る。団塊世代の子供時代の祭りの思い出です。中学同期生は250人弱で、首都圏には90人弱おられます。来年3月には全員高齢者です。望郷が忘郷に成りそうです。10年ほど前祭礼の日に帰郷しました。30数年振りの祭りです。擦れ違ったサイサイ囃子が寂しく聞こえる静かな祭りでした。あの賑わいはどこへ行ったのでしょうか。



# 横手市の 増田町の出来事



懸命にたらいをこぎ、ゴールを目指す選手

好・珍プレーの  
レース展開に拍手

H23 8/16

**増** 田地域の夏の恒例行事、  
たらいこぎ祭り(全日本  
元祖たらいこぎ選手権大会  
が8月16日、真人公園内の公  
園沼で行われました。25回目  
を迎えた今回は、県内外から  
子ども、中学生以上の男女、団  
体の各部門に約120人が参

加。42・195以上のゴール  
を目指してデッドヒートを展  
開しました。他の選手を引き  
離してゴールする人やバラ  
ンスを崩して転覆する人など、  
好・珍プレーが続出。レース  
を見守る観客からは大きな笑  
いとともに盛んな拍手が送ら  
れました。

(市報・平成23年9月1号より)

受け継がれる伝統  
増田の盆おどり

H23 8/16

**中** 七日町通り商店街を会  
場に、640年の長い  
歴史と伝統をもつといわれる  
「増田の盆おどり」が開催され  
ました。秋田音頭の軽妙な地  
口にのり、踊り手は笹かぶり  
の装いで、華麗な踊りが繰り  
広げられました。

(市報・平成23年9月1号より)

真人公園  
りんごまつり

H23 10/9

**秋** の深まりをみせる真人  
公園を会場に「りんご  
まつり」が開催されました。晴  
天の中、会場ではリンゴの唄  
コンクールやリンゴの詰め放  
題、間伐材を利用して作成し  
たアルプホルンの演奏会など  
が行われました。また、ミスリ  
んごコンテストには11人が出



厚木市玉川アルプホルンクラブによる演奏会



ミスりんごコンテスト

場し、高橋仁美さん(横手市・  
左)、飛澤花奈子さん(増田町・  
中央)江村いずみさん(横手  
市・右)の3人が46代目のミ  
スりんごに選ばれました。

(市報・平成23年11月1号より)

守り伝える  
郷土の文化

H23 11/27

**横** 手市増田民俗芸能フェ  
スティバルが、11月27日  
に増田ふれあいプラザで行わ  
れました。

長く地域の人々によって伝  
承されてきた民俗芸能を集  
め、伝統芸能の保存継承に對  
する意識を高めようと、増田  
地域センター運営協議会(会



日頃の保存活動の成果を披露した民俗芸能フェスティバル

自分たちで育てた  
お米は最高

H23 11/17

**11** 月17日、増田小学校の  
5年生が農業体験交  
流学習の一環で育てた米や増  
田産の農産物を使用した「ま  
るごと増田給食」が増田地域  
の小中学校で行われました。  
『ひと粒の種から、まるごと増  
田給食になるまで』をテーマ  
に、種まきや田植え作業、生育  
調査、稲刈りを5年生の児童  
と一緒に行った増田高校の生  
徒や生活研究グループの方な  
ども参加。子どもたちは「作業  
は大変だったけどいい体験が  
できました。自分たちで育て



増田まるごと給食を美味しく  
うに食べる子どもたち

たお米はとても美味しいで  
す」と話していました。

(市報・平成23年12月1号より)

地域農業の  
方向性を考える

H24 2/15

**2** 月15日、『農業の明日を  
拓く！元気な農業経営』  
をテーマに、増田地域農業活  
性化講演会が増田体育館で行  
われました。

はじめに増田高校農業科学  
科の生徒が、「八木ニンニク」  
を普及するための活動成果を  
発表。ニンニクにはがん予防  
効果があり、八木ニンニクは  
他産地と比べて辛み成分が少

ないことや、畑に雪を積み上  
げることで、生食用の収穫期  
間を延ばすことができるなど  
の研究結果が報告されまし  
た。

続いて、平成23年度東北・  
北海道地区『JA青年の主張  
発表大会』に、JA秋田ふるさ  
と青年部増田支部の佐々木拓  
哉さんが出場し、最優秀賞を  
受賞した『野良主義(のらイズ  
ム)』を、この日全国大会に参  
加中の佐々木さんに代わり、  
同支部の平良木亨副部長が発  
表しました。

最後に、農産物の生産だけ  
ではなく、ビジネスとしての  
農業を女性の視点から実践し  
ている山形ガールズ農場代表  
の高橋菜穂子さんが『新しい  
農業のカタチ』と題して講演。  
30種類以上の漢方薬を使用し  
た無農薬米の栽培をはじめ、  
規格外の野菜と黄身の白い卵  
を使い野菜の色を表現したプ  
リンの加工販売や、農商工連  
携による日本酒造りなど、  
ガールズ農場での取り組みを  
紹介しながら「農業を楽しく

『八木ニンニク革命く伝統野菜  
の秘められしパワー発見』と  
題して、増田高校の生徒が行っ  
たプロジェクト発表

行い、新しいことにチャレンジ  
ジすることが大事。東北の  
農業は私たちが変えていく」  
との気持ちで、会場の皆さん  
も一緒に頑張りましょう」と呼  
びかけました。

若い世代の農業に対する熱  
意に触れ、地域農業の方向性を  
考える上でのさまざまなヒン  
トが示された講演会となりま  
した。

(市報・平成24年3月1号より)





# 重要伝統的建造物群保存地区の選定を目指して

## 「歴史ある町並みを活かしたまちづくり」

増田地区は「蔵の日」に象徴されるように、蔵のある町として知られています。近年では、明治のはじめから戦前にかけて建てられた主屋が軒を連ねる町並みにも注目が集まり、これを保存、活用しようという動きが高まっています。市では、増田地区に現存する町並みを、その歴史的価値から保存を図るとともに、貴重な地域資源として通年型観光の拠点に

位置づけ、県内では仙北市角館に次いで2例目となる国の「重要伝統的建造物群保存地区（重伝建）」の選定を目指しています。重伝建地区は6月15日現在、国内で98地区が選定されています。

### これまでの経緯

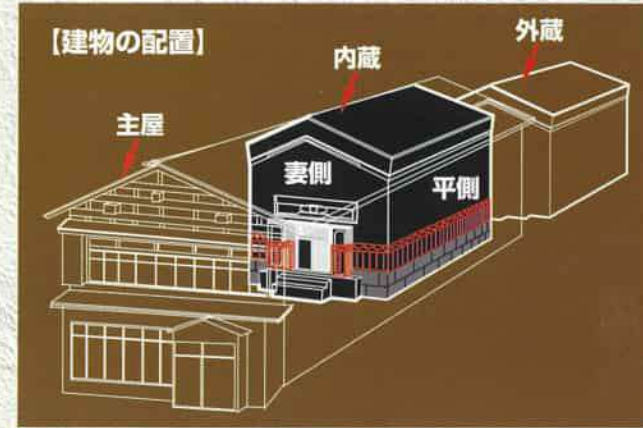
◎平成11年／増田町商工会が、案内板などを設置する「くらしつくろい事業」を開始。  
◎平成15年／増田町文化財協会が内蔵の調査・写真撮影を開始。  
◎平成16年／増田町観光ガイドの会が発足。  
◎平成17年／増田町文化財協会が写真集「増田の蔵」を刊行。蔵への注目が高まる。  
◎平成18年／蔵の会が発足。第1回「蔵の日」を開催。

所在調査のための「歴史的建造物調査」を実施。その結果、主屋や内蔵、外蔵など戦前に建てられた建造物が150棟以上現存し、群として町並みを形成していることがわかりました。こうした結果を踏まえ、市教育委員会では文化財申請を行い、7件10棟が市指定文化財に指定され、18件40棟が国の登録有形文化財に登録されています。

### 平成25年の選定を目指す

今後、保存条例や保存計画を策定し、都市計画法に基づき「伝統的建造物群保存地区」の範囲を決定します。この決定を踏まえ、市から国へ

市では国と協議を行い、増田地区の町並みが景観の国宝級の扱いとなる「重伝建」と成り得る可能性を持つことから、その価値を見極める



「蔵の日」の開催を契機に、蔵のある町・増田としての知名度は高まってきました。時期を同じくして、町並み景観にも注目が集まるようになり、市では平成20・21年に、



国登録有形文化財の「日の丸醸造文庫蔵」



平成22年に行われた内蔵の調査状況



市指定有形文化財の「松浦千代松家」

重伝建選定の申し出を行い、国の文化審議会への諮問・答申を経て「重伝建」へ正式に選定されます。現在のところ、平成25年ごろの選定を目指しています。

### にぎわいのある町並み

地域の歴史や文化を伝える、貴重な伝統的建造物が存在する増田の町並み。まちづくりという観点からも、空店舗や空洞化等の包括的対策も含めた通年型観光地化に向け、さまざまな施策を検討しています。歴史的景観の保全だけでなく、地域の環境や防災設備の整備など、暮らしやすい生活空間を創出し、にぎわいのある町並みを次世代へ継承していきます。



## お願いー連絡ー

事務局より

市町村合併後、市当局からの支援金が大幅に削減されてしまいました。つきましては増田会として、やむをえず次のようにしました。

### 過去5年間、会費が未納の方

総会の案内及び増田会だよりの郵送を中止することにしました。ただし、総会への参加は構いませんので一人でも多くの方々の参加を期待しています。皆様のご理解の程をお願い申し上げます。

## 平成22年度首都圏増田会収支報告

平成23.11.20現在

首都圏増田会の平成22年度収支決算がまとまりました。その内容は下記のとおりです。

【収入の部】 ※「比較」欄は予算との比較

| 項 目     | 金額(円)     | 比 較      | 説 明       |
|---------|-----------|----------|-----------|
| 前年度繰越金  | 772,137   | 0        |           |
| 年 会 費   | 391,160   | ▲108,840 | 手数料差引後    |
| 総 会 費   | 696,000   | ▲104,000 | 87 人      |
| 総会ご祝儀等  | 378,000   | 128,000  | 総会祝儀、広告収入 |
| 横手市補助金  | 270,000   | 0        | 首都圏増田会補助金 |
| 預 金 利 子 | 106       | ▲94      |           |
| 合 計     | 2,507,403 | ▲84,934  |           |

【支出の部】 ※「比較」欄は予算との比較

| 項 目     | 金額(円)     | 比 較     | 説 明         |
|---------|-----------|---------|-------------|
| 総 会 費   | 1,014,715 | 185,285 | 会場料、宴会費用ほか  |
| 通 信 費   | 78,690    | 21,310  | 総会案内状ほか     |
| 会 議 費   | 192,457   | ▲42,457 | 役員会ほか 3 回   |
| 在京ふるさと会 | 162,000   | 68,000  | 各ふるさと会会費    |
| 慶 弔 費   | 80,000    | ▲50,000 | 矢口高雄氏、石山米男氏 |
| 事 務 費   | 16,950    | 13,050  | 事務消耗品       |
| 事業部活動費  | 10,000    | 60,000  | 役員研修広報部活動費  |
| 振込み手数料  | 2,100     | 0       | 銀行経由        |
| 広 告 費   | 50,000    | 30,000  | 増田の花火協賛金ほか  |
| 積 立 金   | 0         | 300,000 | 30 周年積立金    |
| 雑 費     | 108,835   | 291,402 | 交通費ほか       |
| 合 計     | 1,715,747 | 876,590 |             |

収支差引残金 791,656 円は翌年度へ繰越

## 第27回首都圏増田会総会

第27回首都圏増田会総会を下記により開催します。昨年から運営上手詰まりとなり開催時間が午前11:30に変わります。

■期日 11月18日(日)午前11:30～

■場所 オーラム(昨年と同じ場所です)

住所 東京都台東区東上野 1-26-2

電話 03-5812-1123

■会費 8,000 円

※参加者全員が着席できるように準備しています。

## 募集しています

### 首都圏増田会広報部より

広報部では「会員の声」の原稿を募集しています。400字詰め原稿用紙1枚に、故郷への思いや思い出等について自由に文章をお書きください。

■提出先：広報部長 阿部照子

### 首都圏増田会総務部より

総会資料に掲載する広告を募集しています。1口(名刺判)3,000円となります。希望される方は伝票の通信欄にその旨をご記入いただき、会費と一緒に納入してください。

## 会費の納入はお早めに

事務局より

当会の事業・運営は会員の皆様の会費によって賄われていますが、最近会費の納入が遅れたり、未納となる会員の方が出ています。健全会計維持のためにも、納入はお早めをお願いします。なお、未納の方には次回より案内状、たより等の送付はしないこととします。また、転居された方をご存じの方は増田地域局・地域振興課へお知らせください。(連絡先：秋田県横手市増田町増田字土肥館173番地 / 電話 0182-45-5510)

◆会 費 年額2,000円

◆納入期限 平成24年8月31日

※払込伝票の通信欄は、会員紹介、増田会に対するご意見などを自由に記入ください。